

南部ストリートの遊歩道コンセプト

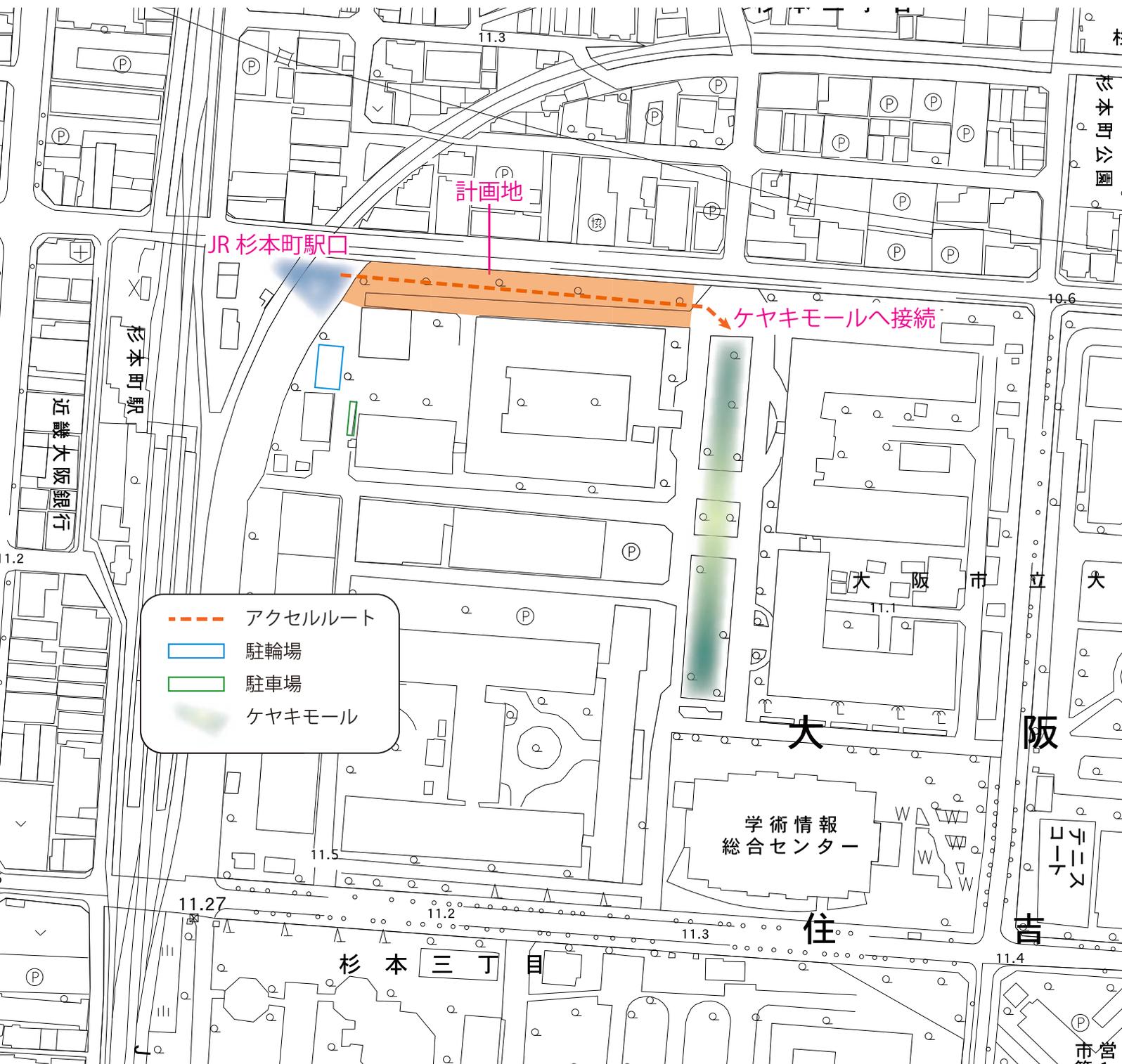
大阪市立大学は都市に建つ大学であり、創立 130 年以上の歴史を持ちます。キャンパスには、メタセコイアやケヤキの緑があり、昭和初期のモダニズムデザインを伝える学舎群にも特徴があります。そのような歴史の蓄積に加えて、昨年度より理系学舎の整備や旧図書館のリノベーションに着手し、都市にある大学としての新しい一歩を踏み出そうとしています。

生活科学部北側通路（南部ストリート）は、大学の新しい顔として整備されます。平成 24 年度にオープン予定の JR 杉本町駅の新しい東口改札を出ると、大学のエントランスゲートがすぐに見え、駅と大学がよりダイレクトにつながります。通路となる敷地には、高さ 9メートルを越えるクスノキ並木があり、緑豊かな環境となっています。このみどりの環境をデザインに取り組み、木陰を散策するようにキャンパスの中心へと人々を導きます。バリアフリーに大学構内へとアプローチできる通路をキャンパスの北西に用意することで、学生や地域の方々が利用できる駅から東へと向かう安全な通路を確保しました。

デザインモチーフとしては、昭和 9 年に建てられた 1 号館の昭和初期モダニズムの門扉の意匠を取り入れたり、白とグレーの建物の建ち並ぶキャンパスに相応しいレンガ色を見つけ出したり、学生とのワークショップでタネまきをすることなどを計画しています。

以上のように、生活科学部北側通路（南部アプローチ）は、大学の新しい顔に相応しいデザインとして、既存のクスノキ並木の緑の環境を引き出しつつ、安全に地域に開いたデザインを目指しています。

生活科学部北側通路（南部ストリート）基本計画案



計画地の現況：クスノキが生い茂る豊かな自然環境

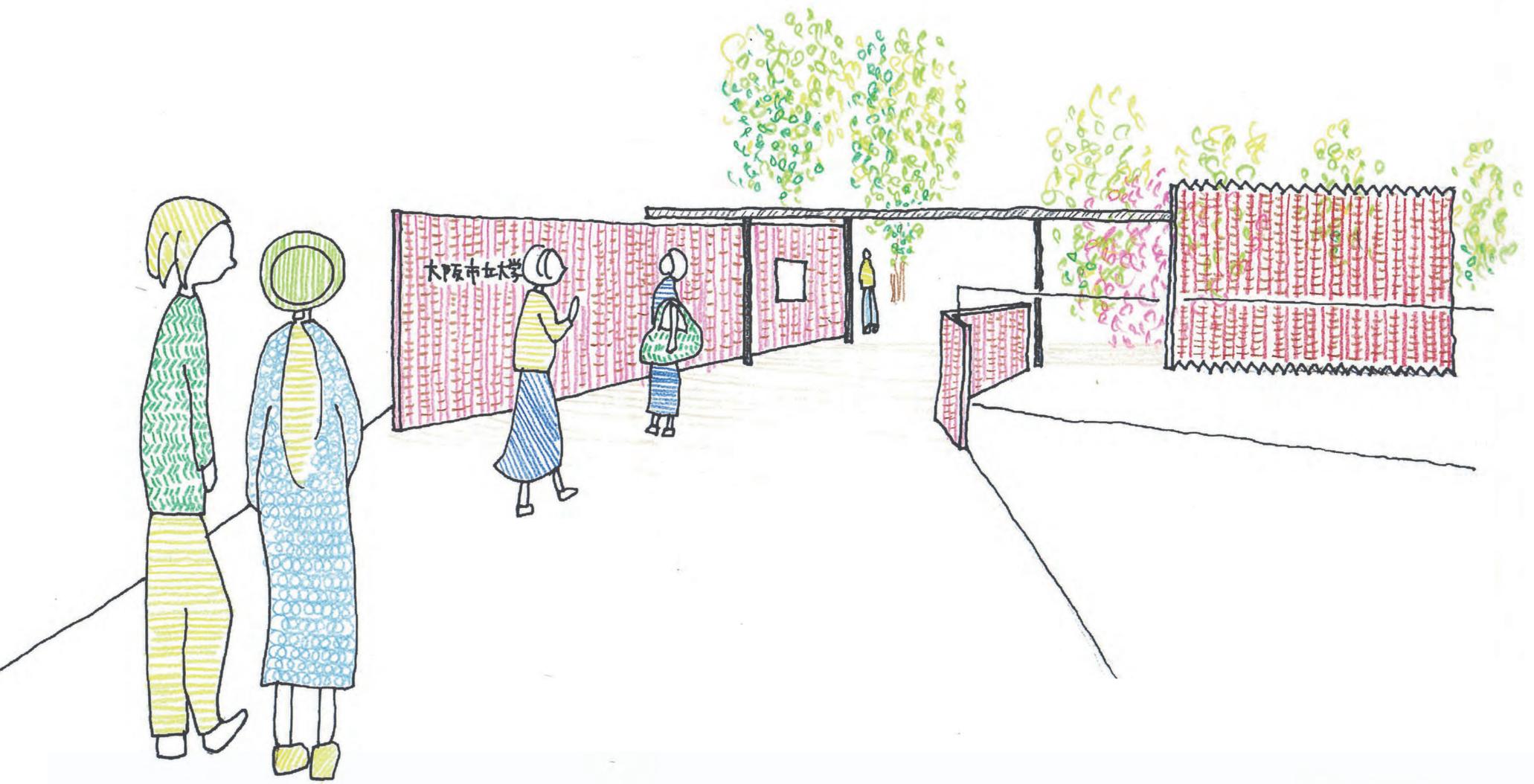


生活科学部北側通路
(南部ストリート)
基本計画案



生活科学部北側通路
(南部ストリート)
基本計画案





エントランスゲート 駅 → 大学



エントランスゲート 大学 → 駅



学生実習イメージ： たねまきワークショップ